

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	145100119
法人名	株式会社アイ・デイ・エス
事業所名	グループホーム第二バナナ園
訪問調査日	平成24年10月30日
評価確定日	平成25年1月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

**○項目番号について**  
外部評価は20項目です。  
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法** 5  
[取り組みの事実]  
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
[次ステップに向けて期待したい内容]  
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
家族 = 家族に限定しています。  
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 24 年度

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	145100119	事業の開始年月日	平成12年4月1日	
		指定年月日	平成12年4月1日	
法人名	株式会社アイ・デイ・エス			
事業所名	グループホーム第2バナナ園			
所在地	( 212-0055 ) 川崎市幸区南加瀬3-7-23			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	8名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成24年8月31日	評価結果 市町村受理日	平成25年4月5日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1 当社の理念に基づき楽しく、明るく、自由に尊厳を重視し個性を大切に家族の雰囲気を作っている。2. 日常生活の中に個々に役割を持って頂き自立への支援を心がけている。3. 民生委員・介護相談員・地域住民との交流により施設への理解が深くなっている。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8SYビル2F		
訪問調査日	平成24年10月30日	評価機関 評価決定日	平成25年1月31日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①このホームの経営母体は、株式会社アイ・デイ・エスである。同社は、社会福祉法人ばなな会と共に、バナナ園グループを構成している。バナナ園グループは、川崎市内のグループホームの創設期から貢献している。現在グループホーム8事業所を主力として、居宅介護・訪問介護・デイサービスも提供している。このホームは、JR川崎駅からバスで10-15分徒歩2-3分の商業地・住宅地の混在した地域にある3階建てのビルの2F部分にある。1ユニット8名の家族的なグループホームである。3Fは、同グループの高齢者住宅と訪問介護の事務所になっていて、1Fは、ビルのオーナーでもある歯科医院がある。この9月に3Fの訪問介護から赴任された管理者は、法人の理念である「明るく・楽しく・自由に」を再確認にして、利用者が自由に・好きなように過ごして頂くことを方針に掲げている。食堂とは別に、離れた場所にあるリビングには、テレビとソファがあり、利用者の憩いの場所になっている。リビングの壁には「自由の原則」として何もしない自由から始まる九つの自由が掲示されている。

②地域との交流も開所して12年を経過していることから、近所付き合いも密接になっており、お隣りさんからは、季節の花が咲くプランターを玄関に置いてくれたりして親しくお付き合い頂いている。利用者と散歩も兼ねて買い物に行くコンビニの店員さんたちとも挨拶を交わす間柄になっている。運営推進会議も、昨年より2カ月に1回定期的に開催されており、町内会長・民生委員・ご家族に加えて幸区の職員にも毎回参加頂き、最新の介護関係の情報を頂いたりして、有意義な会議となっている。また月2回の有料ボランティアによる音楽療法は、長年続いており、利用者の楽しみになっている。

③歴史のあるホームだけに、重度化の問題は、従来より顕在化しており、看取り介護についてもご家族と十分な協議を重ねた上で、対応してきており、今後ともその方針を継続される事になっている。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム第2バナナ園
ユニット名	同上

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	●	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	●	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	●	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	●	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	●	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	●	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	●	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	●	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	●	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	●	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	●	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	●	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			5
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	●	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本部での研修や事業所での業務会議などを通じて、会社と事業所の理念を再確認するよう努めている。	理念の基づいた4項目からなる「対応原則」と9項目からなる「自由の原則」を掲げて絶えず職員の目に触れるようにするばかりではなく、本部での研修やホームでの業務会議等を通じて、会社とホームの理念を再確認するよう努めている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームページの掲載・更新やバナナニュースの配布、ご近所への挨拶、回覧板などを通じて地域に開けた事業所となるよう努めている。また近隣のお店には入居者と共に買い物に行っている。	町内会に加盟している。バナナニュースの配布、ご近所への挨拶、回覧版等を通じて地域に開けたホームとなるよう努めている。近隣のお店には、利用者と共に買い物に行き、店員さんと挨拶を交わしたりしている。お隣さんとは、玄関に花を飾って頂いたり親しくお付き合い頂いている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やイベントを行い地域の方々を招待できるようにし、当事業所を含めた福祉施設への理解をして頂けるように働きかけている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や地域住民、民生委員、行政の方々に参加して頂き前回の会議以降の取り組みの報告や今後の方針などをお話しして、意見交換をしサービス向上に活かしていく。	2カ月に一度定期的開催されている。町内会長・民生委員行政の方にも参加して頂き、ホームの取り組みの報告や今後の方針等をお話して意見交換をし、サービス向上に活かしている。地域包括支援センターとは、これまで交流が薄かったが、最近知り合いとなり今回の管理者交代を契機として今後交流を深めて行く意向である。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員の方とは運営推進会議等で意見交換・質疑応答などを連携してサービスの向上につなげていく。	幸区の市職員の方とは、運営推進会議に出席いただき意見交換・質疑応答等で参考になるお話を頂き、ホームのサービス向上の参考になっている。生活保護課とは、ホームの利用者の件で緊密に連携している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	“身体拘束ゼロの手引き”や諸事例をもとに事例検討をし、身体拘束をなくすように取り組んでいる。日中は玄関を開放し、見守りを徹底、リビングを有効活用できるよう取り組んでいるところである。	「身体拘束ゼロの手引き」や諸事例を基に事例検討をし、身体拘束をしないよう取り組んでいる。日中は、玄関を開放し、見守りを徹底している。食堂とは離れた場所にあるリビングを有効活用できるよう取り組んでいる。言葉については、「他人が聞いて不愉快な言葉」を使わない事を原則としている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議などを開き虐待防止法などについて学び、異常に気がいたら全員で話し合いすぐに対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケア・業務会議等で学ぶ機会をもち、要介護認定の更新時や入居の際にそういった制度をフル活用できるよう、常に準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には可能な限りご本人とご家族に来園して頂き、施設見学をするように勧めている。更に希望がある場合には体験入所を実施できるように手配し、十分な説明を行い理解・納得して頂いてから契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に記載し、説明したり、市や国保連の相談窓口の電話番号等を分かりやすく提示している。更に意見箱を設置し、意見を頂けるようにしている。	重要事項説明書に記載し、説明したり、市や国保連の相談窓口の電話番号等を分かりやすく提示している。さらに意見箱を設置し、意見をいただけるようにしている。ご家族の面会時には、お話をし、ご要望があれば、できる事・できない事に分け、説明し、了解を得ている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼やケア会議を通じ、意見交換を行い、本部会議等に提出して反映させている。	朝礼や毎月1回のユニット会議を通じ、職員からの要望を聞いたり意見交換を行っている。職員からの要望の中で、必要な場合は、管理者会議や経営者会議に提出して要望を反映させている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年毎に人事考課制度に基づき、自己評価及び他者評価をしている。また業務会議等も行い意見交換をして、身近なところで改善できることはないか話し合っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修はもちろんのこと、社外研修への積極的な参加をするよう職員に伝え、参加できるよう手配している。また管理者については外部講師によるコーチング等を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	本部にて月に一度、勉強会を開いており普段は交流する機会の少ない職員同士で、自分の所属する事業所での取り組みや課題について話し合い、情報交換する機会を設けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や入居直後は特に、話をする機会を設けるとともに何気ない普段の会話からも情報を得ていく。またグループホームという業種であるためご本人の意見に留まらず、それまでの生活をよく知っている人の意見や要望も聞く様に心がけ、なるべく本人の意向に沿った生活が出来る様に支援していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する時には、いつでも相談出来る様な体制を整えておく。また対応の仕方が1パターン化しない様に、いつも第三者的な視点を忘れないよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況、家族の状況をまずは伺い、今の状況をどう改善すれば良い方向に転じるのかを共に考えて行く様に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に、入居者とコミュニケーションをとり喜怒哀楽を共感し、本人が必要とされていると感じるよ自信を持って頂き、入居者・職員が共に過ごし支えあう関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の入居前と入居後の生活を情報交換し家族と一緒に本人を支援できるように努める。面会時、近況報告や相談を交え支援を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、近隣、馴染みの方の面会を歓迎し、外出の機会を自由に行っている。以前使用していた家具・寝具・食器・身の回り品を居室で使用して頂く。	友人、近隣、馴染みの方の面会を歓迎し、外出の機会を自由に行っている。ご家族に縁の薄い方もいられるが、3Fの有料老人ホームの利用者との交流もある。毎月2回来てくれている音楽療法の際には、昔の曲を歌い満州の話等昔話に花を咲かせている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団生活の中で各々の個性を大切に、レクリエーションや得意なことを一緒にお手伝いしたり、助け合っていたりする様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了し退所するとき、今後いつでも相談を受ける旨を伝える。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	困難な問題はフェースシート・アセスメントに基づき本人の視点から支援できるよう関係者全員でカンファレンスを持ち本人本位に職員全員で把握し情報を共有する。	生活保護の利用者の中には、ご家族との関係が複雑で、困難な問題も出てくるが、フェースシート・アセスメントに基づき本人の視点から支援出来るよう関係者全員でカンファレンスを持ち、本人本位の介護が出来るよう職員全員が情報を共有している。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで以前の生活歴を入居後の生活環境づくりに活かし、その人らしい安心した生活が送れるように努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル・食事・水分摂取量・排泄・表情などを常に観察、傾聴し、記録・業務日誌等で総合的な把握に努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者全員が入居者の状態像を把握し意見を反映し、入居者の視点にたった個別の具体的な介護計画となっている。	モニタリングは、3カ月に一度行われている。日頃から職員が気がついた利用者の言動は、都度個人記録に記入し、モニタリング時の参考にしている。それにより、関係者全員が、利用者の状態像を把握し意見を反映し、介護計画に繋げている。介護計画の様式の改善を計画している。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者全員の個別記録に気づきや工夫を記入し、全員の話し合いの中でケアプランに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常にニーズの把握に努め、年齢層の広い職員で様々な視点・観点から入居者のおかれている状況を考慮して、何事にもまずは行動するように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	音楽療法や相談員の来園、ハーモニカ演奏、民生委員の協力を頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所が提携している医療機関に納得して頂けた場合には、契約をして頂く。24時間体制にて医療的な支援が出来るように手配している。	このホームが提携している協力医療機関に納得して頂けた場合には、かかりつけ医として24時間対応で医療的な支援が出来るように手配している。訪問歯科と訪問看護にも毎月2回来て頂き、医療連携の体制が出来ている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調管理記録の記入をして、入居者一人ひとりの状態を一貫して把握して頂けるようにしている。また突発的な入居者の体調変化に備え、電話などで連絡・連携できるように体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と協働しながら医療機関と3者となり退院に向けた支援の体制をつくっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応はマニュアル化されており家族の理解を得ている。終末期のあり方も家族と話し合いの方針を共有している。	重度化した場合の対応は、マニュアル化されており、ご家族の理解も得ている。終末期のあり方もご家族と話し合いの方針を共有しており、医師・看護師・ご家族との話し合いで、諸条件が合えば、看取り介護にも臨んでいる。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誰もが対応できるように、ケア会議等の時間を活用して訓練している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと避難訓練・消火訓練・救助訓練を行っている。毎年、消防点検も行っている。災害時には地域の中でも、当事業所を優先的に支援して頂けるような言葉をもらっている。	近所にある南加瀬消防署の指導を得て、11月には、2F/3F合同での夜間対応の避難訓練を行う予定である。これまでは、ホーム単独で、近隣の住民の参加・協力もいただき行っていたが、今回2・3F合同で行うことにより、管理者は、実践的な訓練になると期待している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録においても十分に注意した文章で記入している。何気ない言葉がけの場合でもその人を尊重した言葉がけをしている。	個人情報保護のため、記録においても十分に注意した文章で記入している。何気ない言葉がけで、利用者の尊厳を損なうこともあるので、その人を尊重した言葉がけをしている。トイレの鍵が壊れていてプライバシーの保護を損なうとの職員の声から最近、修理された例がある。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	それぞれが家で生活している様な空間をつくり、思いや希望を自由に表現しやすいゆとりのある暮らしが出来るよう支援している。個々が家族と生活しているような話かけをし、その人に理解しやすい言葉で自分の思いや希望を表せるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞き入れ、一人ひとりのペースに合わせた一日の流れになっている。生活リハビリや体を動かすレクリエーションを取り入れある程度の刺激も受けれる様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みを尊重し、好きなものを選択している。理美容も本人・家族の好みに合わせた支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	目で楽しみ、バイキングの様に自らが選んで食事ができるイベントを行い、食事をする喜びに繋がるように支援している。片付けなど、入居者が出来ることを職員と共に行っている。	メニューの作成と食材の手配は、業者を利用している。時には、利用者の楽しみのため、おやつバイキングを行い利用者が自ら選んで頂くイベントを行っている。食事は、職員も含め全員が一つのテーブルを囲んで、会話しながら楽しく食事している。片付けなど利用者が出来る事を職員と共に行っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は入居者の希望を取り入れ、個々の栄養バランスは医師と相談しながら決めている。水分摂取量は時系列表で適正量を確認している。それぞれの嗜好に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自立度に応じた声かけ・誘導介助を行っている。また週1回の訪問歯科を利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	それぞれの排泄パターンやリズムを把握し、トイレ誘導している。	排泄記録表は、記録されており、それぞれの利用者の排泄パターンやリズムを把握して、手引き歩行出来る方も含めて、声かけにより、トイレ誘導し、トイレでの排泄を心がけている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材も旬のものを取り入れ、食物繊維の多い食材をいかに食べやすく調理するかを話し合っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間をある程度、決めているが楽しくリラックスして入浴できるよう支援している。	浴室は大きく、浴槽は二つあるが、大きな浴槽は使用されていない。入浴は、2F/3F共同で使用され、週2回づつに決められているが、3Fが使用する日でも融通して入浴される利用者も居る。楽しくリラックスして入浴できるよう支援している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の流れは計画しているが、本人の体調・意思を尊重して、起こしっぱなし・寝かせっぱなしにならない様になっている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	連絡ノートや服薬チェック表、各記録を通じて支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽療法等で気分転換や楽しみを支援し、また入居者同士のコミュニケーションを増やす工夫をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員との買い物や散歩はもちろんのこと、可能な限り家族とも一緒に外出できるように支援している。	近くの中学校の周囲の道路を散歩コースとして歩いている。近くのコンビニやドラッグストアへの職員との買い物も外出の機会になっている。可能な限りご家族とも一緒に外出できるように支援している。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の進行により、お金を所持して頂くことが難しい入居者が増えている。しかし買い物に行くときなど、ご自信で会計ができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の理解を得て行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	育成しやすい植木などをリビングに置き、入居者の好みで世話ができるようになっている。	食堂とリビングが離れた場所にあり、リビングは、寛げる場所として、テレビやソファが置かれている。育成しやすい植木等もリビング置かれ、利用者の好みで世話できるようになっている。壁には利用者の作成した作品も飾られている。音楽療法も毎月2回行われている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分にはそれぞれの好むイスを持ち込んで頂き、居心地のよい空間となるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた寝具・好みのもので居心地の良い空間づくりを工夫している。	居室には、洗面台が設置されており、余裕のある作りになっている。利用者ご本人の使い慣れた寝具・好みの備品などを持ち込みいただき、居心地の良い空間作りを工夫している。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者に合わせたトイレ・廊下により、車イスでなく手すりにつかまってトイレまで移動したりしている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム第2バナナ園

作成日

平成24年10月30日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	2	地元の方々と交流する 為に地域活動に参加・ 協力していく。	地元の方々と交流なされ ていくように、天気 の良い時に散歩の回数 など増やし理解を深め る。	町内会の活動に参加す る。連携がとれるよう 月に1回バナナニュース を配布する。	平成24年12月 末
2	16	家族の意見・不満等を 解決し快く安心して当 施設を利用して頂く。	家族・入居者とスムー ズにコミュニケーション がとれるよう運営推 進会議を充実させる。	家族・管理者・職員の第3 者等、専門家の意見も取 り入れていく。	平成25年3月末

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。







